

いわき商工会議所
小規模事業所景気動向調査 Vol.3
(2016年10月～2016年12月)

○調査対象事業所数；150事業所（小売；45 卸；15、製造；24、建設17、サービス49）

(1) 今期の調査結果のポイント

- 前期調査において、ほとんどの産業で来期予想が急激な悪化傾向となっていたが、予想通り今期の業況判断 DI は、前期と比較して軒並み大幅に低下している。ただし、採算（経常利益）DI は、ほぼ横ばいになっている。
- 2016年10月～2016年12月の全事業所の業況判断 DI は、▲29.5で、「悪い」という判断がかなり多くなっており、前期▲19.3と比べ10.2ポイントも悪化している。
- 殆どの産業で多くの DI 値の前期差のマイナス幅が拡大し悪化している中、小売業だけは業況判断 DI が、前期と比較すると9ポイントほど上昇し、好転している。
- 一方、今期と比べた来期の見通しについては▲31.0で前期▲29.7と比較すれば0.3ポイント減とほぼ横ばいだが、上昇あるいは横ばいの業種と低下の業種で大きく分かれている。

(2) 業種ごとの傾向

(ア) 全産業

2016年10-12月期の全産業の業況判断 DI は、(前期▲19.3→) ▲29.5 (前期差 10.2 ポイント減)、前期と比べた今期の状況の DI では、資金繰り (前期▲5.6→) ▲16.7 (前期差 11.1 ポイント減)、業況 (自社) (前期▲21.9→) ▲28.5 (前期差 6.6 ポイント減) となり、上向き傾向であった前期から一転、大きく落ち込んだ。これは、大方前期に予測していた今期の傾向と符合しており、予想通りの結果になったと言える。

前年同期と比べた来期の見通しの業況 (自社) が (前期▲23.8→) ▲26.1 (前期差 2.3 ポイント減)、今期と比べた来期の見通しの業況 (自社) が (前期▲29.7→) ▲31.0 (前期差 0.3 ポイント減) となり、大きく変化はしていないものの、来期もこの悪化傾向が続くことが予想される。

(イ) 製造業

今期の業況判断 DI は (前期 10.0→) ▲13.6 (23.6 ポイント減)、今期と比べた来期の見通しの業況 (自社) DI (前期 0.0→) ▲21.1 (21.1 ポイント減) となっており、いずれも大幅な悪化傾向がみられる。とくに今期の採算 (経常利益) DI を見ると、前々期の 4.6 から前期の 0、今期の▲4.6 と悪化傾向が続いている。

設備投資に関しては、今期は 5 件で、来期は 10 件の計画 (OA 機器 3 件、生産設備 3 件など) となっており、増加傾向にある。

経営上の問題の上位を見ると、「需要の停滞」が 8 件、「製品ニーズの変化への対応」6 件、「原材料価格の上昇」「生産設備の不足・老朽化」が 5 件など、ほぼ前期と同様の傾向が続いている。

(ウ) 建設業

今期の業況判断 DI が（前期 12.5→）▲11.8（前期差 24.3 ポイント減）、前期と比べた今期の状況の業況（自社）DI が（前期 15.4→）▲14.3（前期差 29.7 減）など、好調だった前期と比較して悪化傾向が顕著だが、今期の採算（経常利益）DI が（前期 17.7→）17.7（前期差なし）となるなど、一定の水準は維持している。

ただし、今期と比べた来期の見通しの業況（自社）DI は、（前期▲35.3→）▲37.5（前期差 2.2 ポイント減）で、悪化傾向が続くと予想される。

設備投資に関しては、今期および来期とも 2 件で、前期の 0 件よりは増加しているが、いまだ意欲は旺盛ではない。

経営上の問題の上位を見ると、「官公需要の停滞」が 6 件、「材料価格の上昇」「請負単価の低下・上昇難」が 5 件が多いが、「熟練技術者の確保難」「下請業者の確保難」など 4 件で、事業所ごとに分散している。

(エ) 卸売業

今期の業況判断 DI は（前期▲14.3→）▲33.3（前期差 19.0 ポイント減）、前と比べた今期の状況は、資金繰りが（前期 8.3→）▲15.4（前期差 23.7 ポイント減）、採算（経常利益）が（前期▲8.3→）▲15.4（前期差 7.1 ポイント減）と改善傾向にあった前期から一転、急速に悪化している。今期と比べた来期の見通しも、業況（自社）DI が（前期 0.0→）▲30.8（前期差 30.8 ポイント減）となっており、この傾向はさらに続く見通しとなっている。

設備投資に関しては、今期は 2 件実施および来期は 5 件が計画しており、前期と同様の傾向となっている。

経営上の問題の上位を見ると、「需要の停滞」が 7 件で最も多く、「販売単価の低下・上昇難」が 6 件、「仕入単価の上昇」が 5 件で続いており、問題は多岐にわたる傾向がみられる。

(オ) 小売業

今期の業況判断 DI が（前期▲33.3→）▲24.4（前期差 8.9 ポイント増）、採算（経常利益）（前期▲22.2→）▲13.3（前期差 8.9 ポイント増）など微増となっており、前期から継続して上昇傾向にある。今期と比べた来期の見通しも、業況（自社）が（前期▲37.1→）▲25.0（前期差▲12.1 ポイント増）など、今後も改善傾向が続く見通しとなっている。

設備投資に関しては、今期 3 件および来期 11 件（店舗 4 件など）と、前期よりも積極的姿勢が見られ、好転した状況を反映している。

経営上の問題の上位を見ると、「消費者ニーズの変化への対応」が 19 件で最も多く、「購買力の他地域への流出」が 16 件、「需要の停滞」が 11 件で続いており、前期同様の傾向がみられるが、今期は「大型店・中型店の進出による競争の激化」が 12 件と問題として増加している傾向となっている。

(カ) サービス業

今期の業況判断DIが（前期▲30.0→）▲46.0（前期差 16.0 ポイント減）、採算（経常利益）が（前期▲6.0→）▲12.0（前期差 6.0 ポイント減）と悪化傾向が続いており、その他の指標もほとんど前期と同様の傾向で低迷している。とくに、前年同期と比べた来今期の状況で、業況（自社）が（前期▲39.5→）▲50.0（前期差 11.0 ポイント減）、採算（経常利益）が（前期▲32.7→）▲53.1（前期差 17.4 ポイント減）となっており、悪化が際立っている。

設備投資に関しては、今期 7 件および来期 12 件と前期から増加しており、積極的な姿勢は維持されている。来期はサービス設備が 4 件計画されている。

経営上の問題の上位を見ると、前期同様「利用者ニーズの変化への対応（23 件）」「需要の停滞（20 件）」の 2 つに回答が集中し、「材料費等仕入単価の上昇（13 件）」が続いている。

(3) 「中小企業景況調査」との比較

全国の「中小企業景況調査」今期の全産業の業況判断DIは、（前期▲18.2→）▲18.7（前期差 0.5 ポイント減）となり、2 期ぶりにマイナス幅がやや拡大したが、それと比較してもいわき市の▲29.5（前期差 10.2 ポイント減）は悪化傾向が際立っている。

製造業の業況判断DIは、（前期▲15.6→）▲15.5（前期差 0.1 ポイント増）と 2 期連続してマイナス幅がわずかに縮小したのに対し、いわき市では（前期 10.0→）▲13.6（23.6 ポイント減）であり、いわき市の主力産業である製造業が不調に転じたことが全体に大きく影響しているといえる。

一方で、非製造業の業況判断DIは、（前期▲19.0→）▲19.6（前期差 0.6 ポイント減）とマイナス幅がやや拡大したのに対し、いわき市の非製造業の業況判断DI（▲24.0→）▲32.3（前期差 8.3 ポイント減）でさらにマイナス幅が拡大しており、非製造業もいわき市は全国より景況の悪化傾向は続いている。

産業別に見ると、サービス業で▲16.4（前期差 0.6 ポイント増）とマイナス幅が縮小したのに対して、いわき市が▲46.0（前期差 16.0 ポイント減）、建設業で▲11.1（前期差 2.3 ポイント減）に対していわき市が▲11.8（前期差 24.3 ポイント減）、卸売業で▲18.5（前期差 0.8 ポイント減）に対し、いわき市が▲33.3（前期差 19.0 ポイント減）など軒並み全国よりいわき市は大きく悪化している。

一方小売業で▲28.6（前期差 0.2 ポイント減）とマイナス幅が拡大したが、いわき市では

▲24.4（前期差 8.9 ポイント増）と、いわき市の好転が際立っている。

ただし、全産業の採算（経常利益）DI は、（前期▲24.0→）▲25.4（前期差 1.4 ポイント減）とマイナス幅が拡大したのと比較して、いわき市では（前期▲7.4→）▲6.8（前期差 0.6 ポイント増）で若干だがマイナス幅が縮小傾向にあり、DI 値も含めて全国平均よりは好調である。

今回は全国的な傾向の悪化傾向よりもいわき市の悪化傾向は顕著ではあるが、小売業の好転や採算（経常利益）DI の堅調さなど、明るい兆しもあるので、今後の動きを注視していく必要がある。

図1 業況判断DIの推移 H28-I(4-6月)期~H28-III(10-12月)期

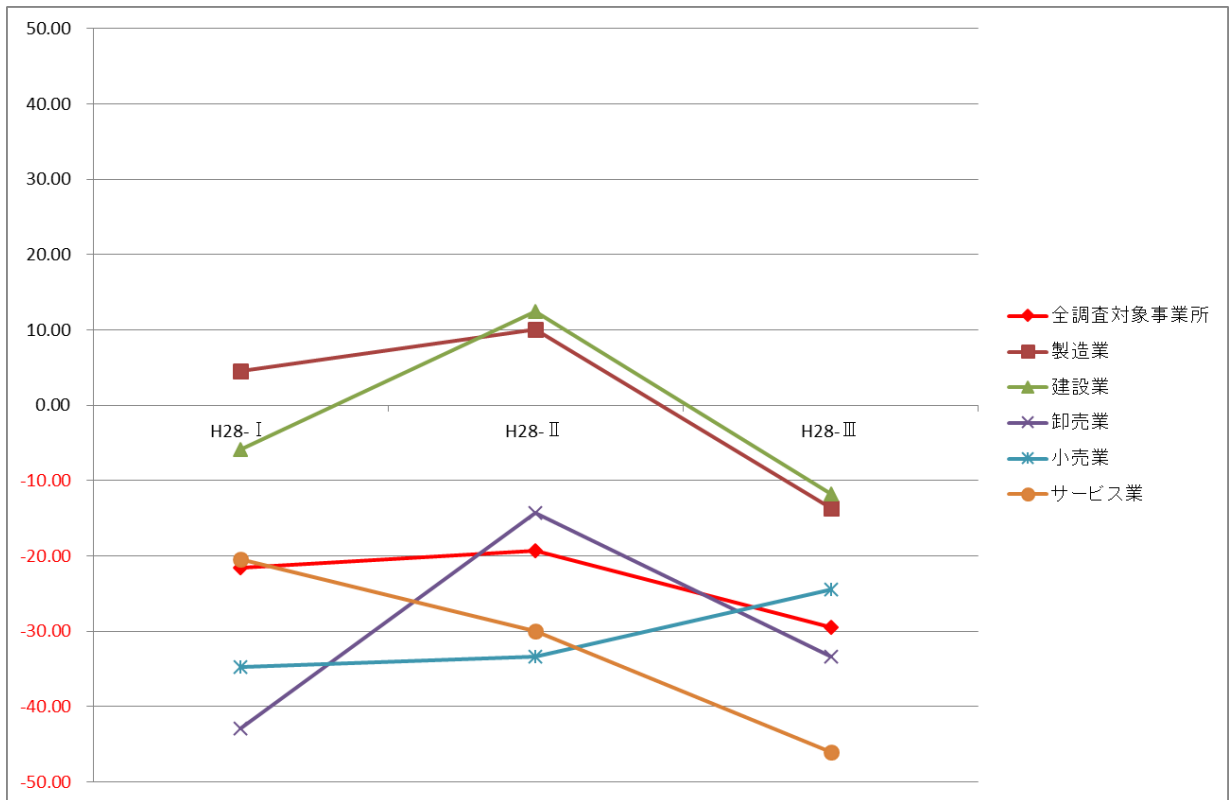


図2 採算(経常利益)DIの推移 H28-I(4-6月)期~H28-III(10-12月)期

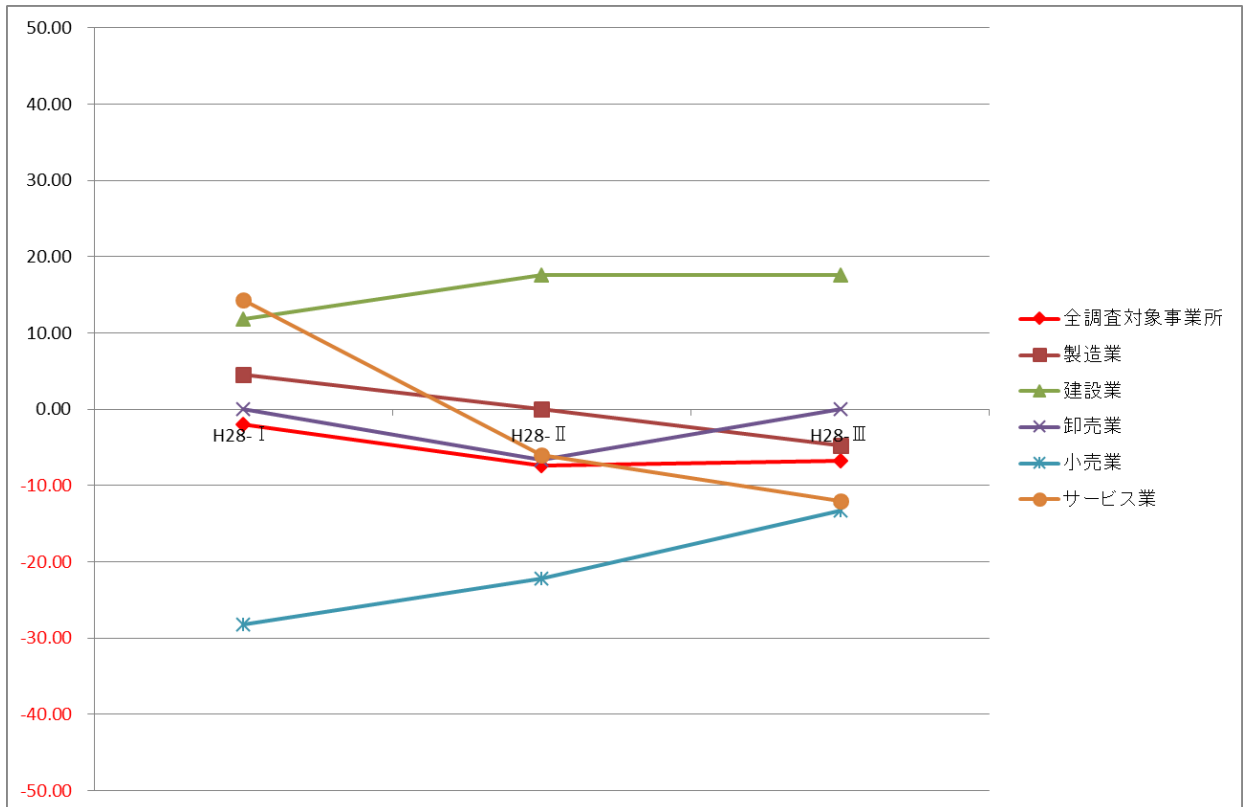


図3 従業員（含臨時・パート）DIの推移 H28-I（4-6月）期～H28-III（10-12月）期

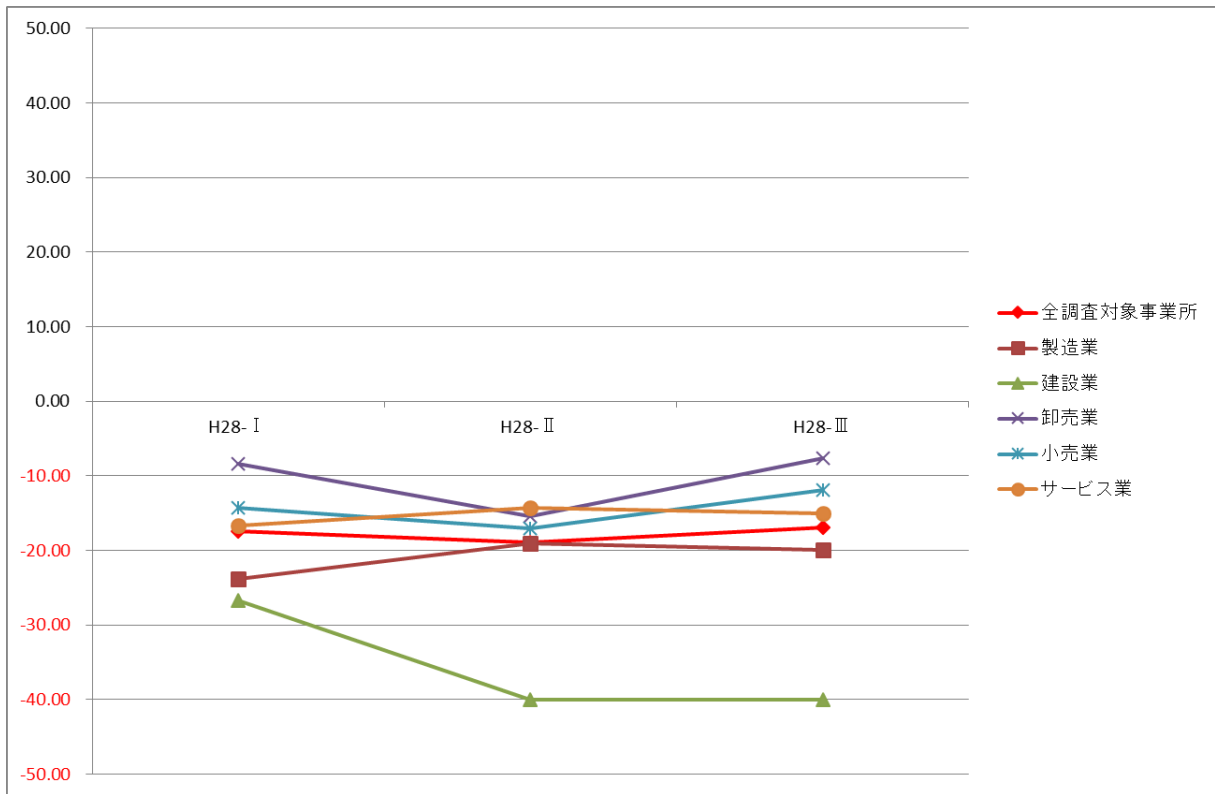


図4 前期比:業況判断DIの推移 H28-I（4-6月）期～H28-III（10-12月）期

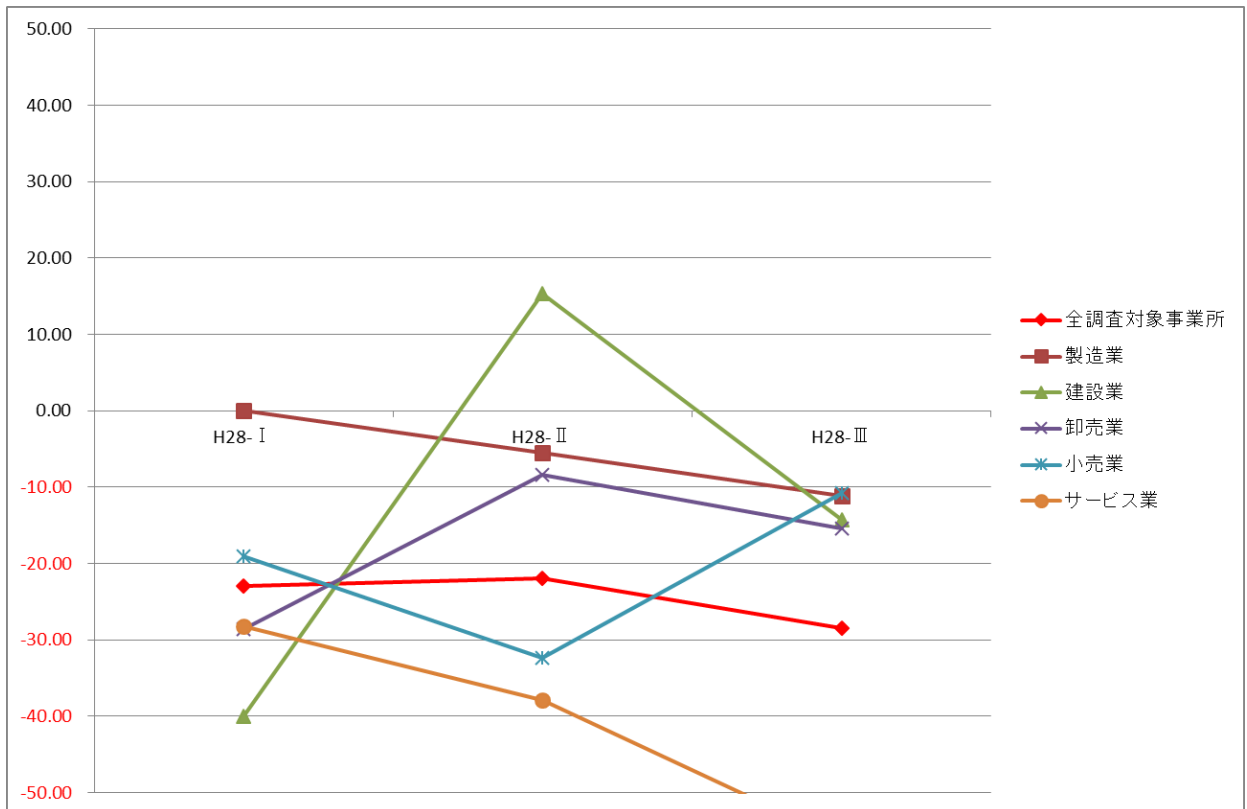


図5 前期比:資金繰りDIの推移 H28-I(4-6月)期~H28-III(10-12月)期

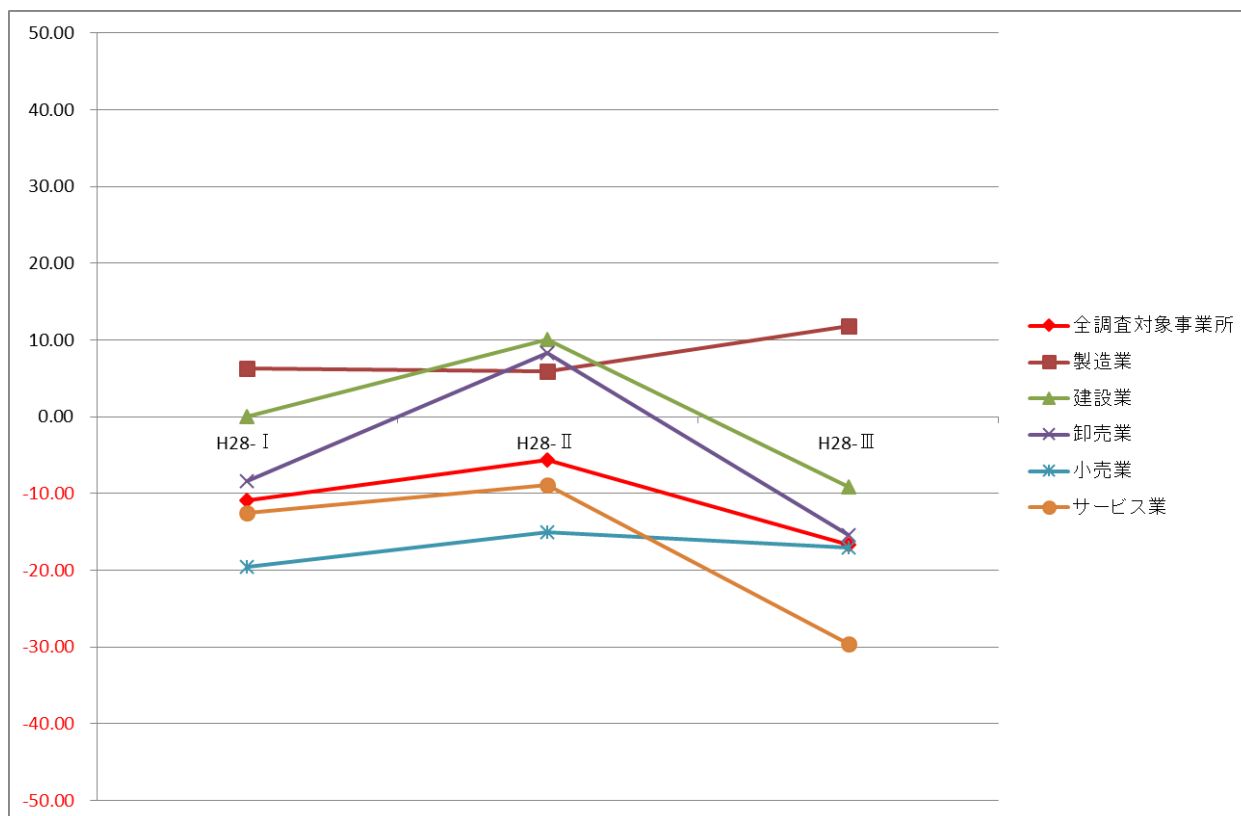


図6 今期比来期見通し:業況判断DIの推移 H28-I(4-6月)期~H28-III(10-12月)期

